

FY2025 地域交通DX推進プロジェクトCOMmmmmONS

# 乗降実績データ標準仕様書 (鉄道・バス)

2026年2月  
国土交通省 総合政策局 公共交通政策部門 モビリティサービス推進課

項目	内容
文書名称	乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）
文書ID	commmmons_doc_005
発行元	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部門 モビリティサービス推進課
最新版数	v1.0
制定年月	2026年2月
適用範囲	地域交通（鉄道・バス）における乗降実績データの作成・交換
備考	本仕様書は2025年度の地域交通DX推進プロジェクト「COMmmONS」における「モビリティ・データ標準化プロジェクト」により作成されました。

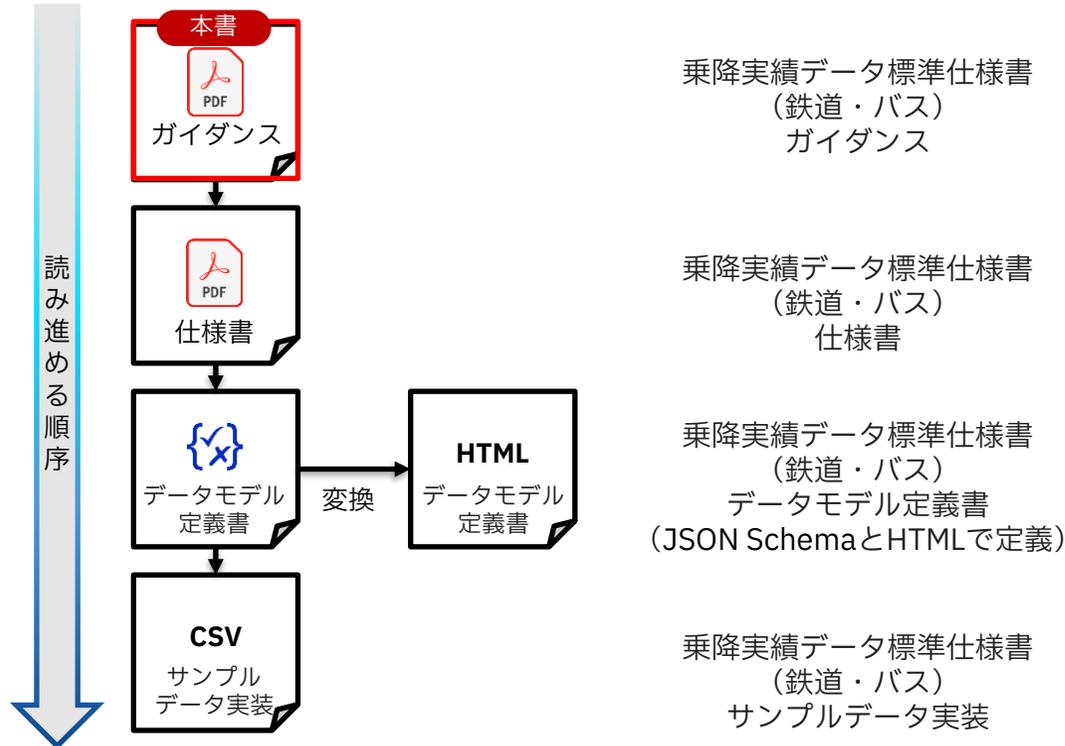
版数	年月日	改訂内容
v1.0	2026/02/07	初版制定

章番号	タイトル	概要
1	本仕様書の位置付け	本仕様書が果たす役割と、関連ドキュメント（ガイダンス等）との関係性を示します。
2	データモデルとスキーマ構造	データが「チケット情報（静的）」と「乗降実績（動的）」で構成される論理構造を解説します。
3	ファイルフォーマット仕様	ファイル命名規則、文字コード、CSV分割ルールなどの物理仕様を規定します。
4	データ項目詳細定義	CSVを構成する全フィールドの型、必須属性、推奨値などの技術詳細を定義します。
5	付録	鉄道・バス（IC/運賃箱）の具体的なデータ記述例を提示します。

# 1. 本仕様書位置付け

## 乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）の全体像と本仕様書の位置付け

- 本仕様書は、鉄道及びバスの乗降実績データを作成・提供・利用する際に準拠すべき「技術仕様（物理名、型、制約等）」を定義したものです。仕様の背景や策定プロセスについては、「乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）ガイダンス」を参照してください。



乗降実績データ標準仕様書  
(鉄道・バス)  
ガイダンス

乗降実績データ標準仕様書  
(鉄道・バス)  
仕様書

乗降実績データ標準仕様書  
(鉄道・バス)  
データモデル定義書  
(JSON SchemaとHTMLで定義)

乗降実績データ標準仕様書  
(鉄道・バス)  
サンプルデータ実装

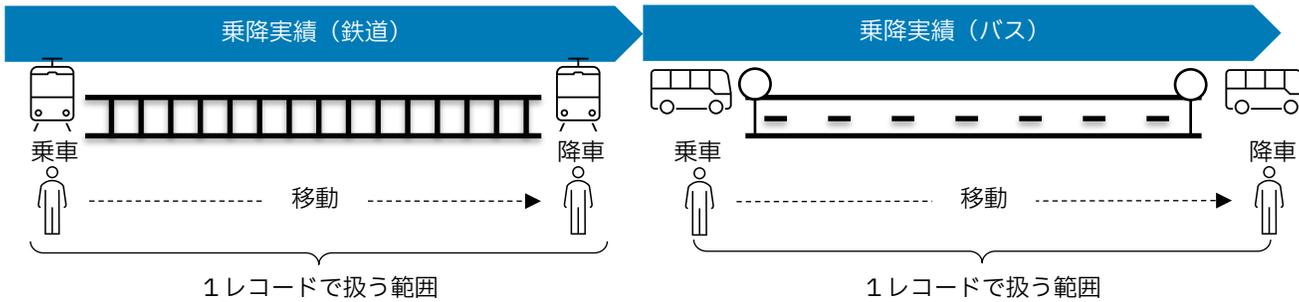
分類	名称	ファイル形式	想定読者	内容
ガイダンス	乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）ガイダンス（本書）	pdf	交通事業者 自治体担当者 開発担当者	現状の課題や標準化の意義、仕様策定プロセスなど、標準仕様の背景や文脈（コンテキスト）の解説する。「標準ドキュメント」を読むための前提知識を提供する。
	<b>本書</b> 乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）	pdf	交通事業者 自治体担当者 開発担当者	データの物理名、型、桁数、必須条件などの技術的詳細を網羅的に定義する。開発時の「辞書」として機能する。
標準ドキュメント	乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）データモデル定義書	Json html	開発担当者	開発者がデータのバリデーション（検証）実装等に利用するJson形式の技術定義（JSON Schema準拠）とjson-schema-for-humansを利用しJSON Schemaを人が読み易いHTMLに変換したものの2点。
	乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）サンプルデータ実装	csv	開発担当者	具体的な実装イメージを持つためのCSVファイル群。

## 2. データモデルとスキーマ構造

### 乗降実績データ標準仕様書に含まれるデータ項目

- 本仕様では「チケット情報（静的）」と「乗降実績（動的）」を結合したOD（出発地・到着地）単位の1レコードとして扱います。

#### 標準乗降実績データとして扱う1レコードの単位

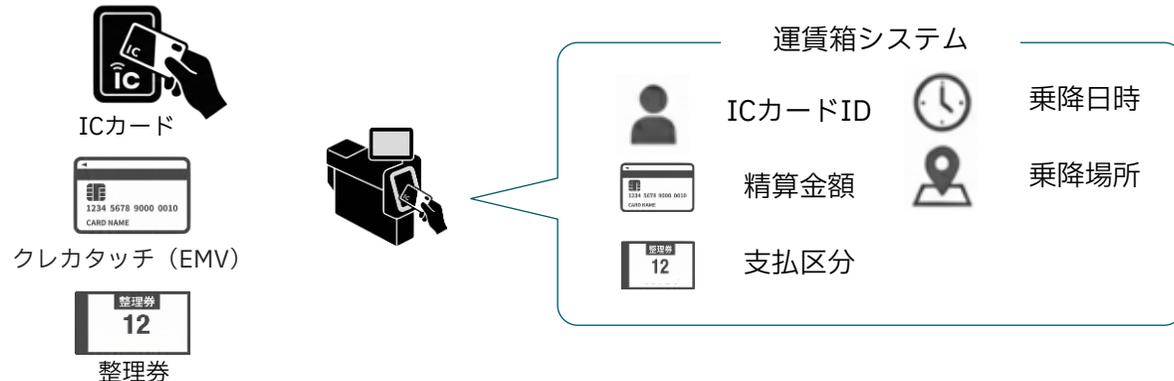


現行システムでは、鉄道及びバスの双方において、乗降実績データとしてODデータ（Origin（出発地）とDestination（到着地）を1レコードとして扱うケースが一般的といえます。このため、「乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）」でもこれを参照し、ODデータを1レコードとして扱います。

他方、本仕様はワンタッチ（乗車もしくは降車時のみICカードをタッチし乗車する方式）の運用にも対応しています。ワンタッチで運用されている場合には、乗車又は降車に該当するレコードのみ値を入力する仕様としています。

このように、本仕様はツータッチ及びワンタッチの双方に対応し、いずれの運用であっても統一されたテーブルでデータを扱える設計としています。

#### 本仕様が想定するチケットティング手段



本仕様では、基本的にICカードシステムを用いたチケットティングにより取得される乗降実績データを対象としています。

ただし、近年ではバスの運賃箱システムにもクレカタッチ（EMV）や現金（整理券）、QRコードなど多様なチケット認証方法が登場していることから、これらの手段によってICカードシステムと同様の乗降実績データを取得できる場合には、本仕様の対象とします。

## 2. データモデルとスキーマ構造

### 乗降実績データ標準仕様書に含まれるデータ項目

- 本仕様では「チケット情報（静的）」と「乗降実績（動的）」を結合したOD（出発地・到着地）単位の1レコードとして扱います。

#### 標準乗降実績データのデータ構造とファイル形式



通常、1枚のICカードを用いて鉄道及びバスに複数回乗車することが可能であるため、「チケット情報」と「乗降実績」は本来粒度が異なる情報です。

しかし、鉄道、バス事業各社が扱うODデータには「チケット情報」が含まれているケースが多いことと、自治体におけるデータ利用シーンにおける取り回しの良さを重視する観点から、「乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）」ではこの2つの情報を1つのレコードで扱います。

また、ファイル形式は広く普及しているCSVを採用します。

## 2. データモデルとスキーマ構造

### 乗降実績データ標準仕様書に含まれるデータ項目

ODデータの粒度はタッチの発生によって分けられます。以下の例では2レコードが発生します。

#### 標準乗降実績データとして扱う1レコードの粒度



2件の乗降実績データが発生

• 乗降実績の例

乗降明細	チケット		個人情報		精算情報	鉄道・バス共通		鉄道	バス		
	カードID	カード種別	性別	年齢	精算金額	降車駅停留所	乗車駅停留所	乗継駅停留所	系統番号	便名	
△△電鉄より出力されるレコード	鉄道明細	123456	オートチャージ	男性	25	960円	新宿駅	羽田駅	品川駅		
〇×バスより出力されるレコード	バス明細	123456	オートチャージ	男性	25	1050円	羽田空港	八重洲北口		空51	東京ゆき

2件の標準フォーマット対応データとして出力

△△電鉄より出力されるレコード	チケット情報（固定情報）9件	乗降実績（動的情報）35件
〇×バスより出力されるレコード	チケット情報（固定情報）9件	乗降実績（動的情報）35件

## 2. データモデルとスキーマ構造

### 乗降実績データ標準仕様書に含まれるデータ項目

- 定義するデータ項目は以下の通りです。  
「物理名」はCSVファイルのヘッダ行に対応します。

No	分類(※)	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須		データ型
					IC	運賃箱	
1	共有	乗降実績ID	ridership_record_id	○	○	○	Integer
2	チケット	ICカード識別コード	ic_card_agency_identification_code		○	○	String
3	チケット	ICカード発行事業者コード	ic_card_issuer_code				String
4	チケット	ICカード発行事業者名	ic_card_issuer_name				String
5	チケット	ICカード機能区分	ic_card_feature_type				Enum
6	チケット	券種エリアコード	ticket_type_area_code				String
7	チケット	券種区分	ticket_type				Enum
8	チケット	券種名	ticket_type_name				String
9	チケット	券有効開始日	ticket_valid_start_date				Date
10	チケット	券有効終了日	ticket_valid_end_date				Date
11	乗降実績	交通モードコード	transportation_mode_code				String
12	乗降実績	ICカード利用明細ID	ic_card_usage_detail_id				Integer
13	乗降実績	運行事業者コード	operating_agency_code				String
14	乗降実績	運行事業者名	operating_agency_name				String
15	乗降実績	営業所コード	serviced_office_code			○	String
16	乗降実績	営業所名	serviced_office_name				String
17	乗降実績	系統ID	route_pattern_id				String
18	乗降実績	系統番号	route_pattern_number			○	String
19	乗降実績	路線名	service_line_name				String
20	乗降実績	経路名	route_name				String
21	乗降実績	便コード	trip_code				String
22	乗降実績	ダイヤ番号	timetable_number				String
23	乗降実績	車両番号	vehicle_number				String

No	分類(※)	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須		データ型
					IC	運賃箱	
24	乗降実績	処理区分	operation_type				Enum
25	乗降実績	処理詳細区分	operation_detail_type				Enum
26	乗降実績	乗車エリアコード	boarding_area_code				String
27	乗降実績	乗車停留所連番	boarding_station_sequence				Integer
28	乗降実績	乗車駅(停留所)コード	boarding_station_code		○	○	String
29	乗降実績	乗車駅(停留所)名	boarding_station_name				String
30	乗降実績	乗車日時	boarding_at				Date-time
31	乗降実績	乗車経路ID	boarding_route_id				String
32	乗降実績	乗継エリアコードリスト	transfer_area_code_list				Array<String>
33	乗降実績	乗継駅(停留所)コードリスト	transfer_station_code_list				Array<String>
34	乗降実績	降車エリアコード	alighting_area_code				String
35	乗降実績	降車停留所連番	alighting_station_sequence				Integer
36	乗降実績	降車駅(停留所)コード	alighting_station_code		○	○	String
37	乗降実績	降車駅(停留所)名	alighting_station_name				String
38	乗降実績	降車日時	alighting_at				Date-time
39	乗降実績	精算日時	payment_at		○	○	Date-time
40	乗降実績	大人障がい者利用者数	adult_challenged_passenger_count				Integer
41	乗降実績	大人利用者数	adult_passenger_count			○	Integer
42	乗降実績	小児障がい者利用者数	child_challenged_passenger_count				Integer
43	乗降実績	小児利用者数	child_passenger_count			○	Integer
44	乗降実績	利用者分類区分	passenger_classification_type				Enum
45	乗降実績	支払い区分	payment_type				Enum

※チケット情報（静的情報）に対して、複数の乗降実績（動的情報）が紐づく区場合、同じチケット情報を持つレコードが複数発生します。

※単一のチケット情報（静的情報）に対して複数の乗降実績（動的情報）が紐づくデータ構造であるため、多重度を設定したリレーショナルデータとして定義することも可能ですが、本仕様では主な想定データ提供先である地方公共団体における取り回しの良さを重視し、単一のフラットテーブル構造を採用しています。

### 3. ファイルフォーマット仕様

#### ファイルフォーマット仕様

- データ連携における相互運用性を担保するため、以下のファイル形式および命名規則を定めます。

#### ファイル詳細

- ファイル名  
「会社名称」\_「交通モード」\_「日付」.csv
- ファイル名の変数

#	変数名	フォーマット	サンプル	詳細
1	会社名称	任意(日本語名/30文字以内)	○×電鉄株式会社	会社の正式名称を設定する。
2	交通モード	GTFS-JP Route.txtのroute_typeを設定	2	対象ファイルに含まれるデータの交通モードを表すコード。 GTFSおよび、GTFS-JP（第3版）におけるroute.txtの route_typeを参考に、以下の値とする。  【コードリスト】 2(鉄道), 3(バス)
3	日付	YYYYMMDD	20251201	交通事業会社が管理するデータ管理日付（データ出力日）を西暦で設定する。

- 文字コード  
UTF-8
- ファイル分割ルール
  - ファイルの分割単位  
ファイル名に付与される「交通モード」×「日付」単位にファイルを分割する。
  - ファイルサイズ  
制限なし

### 3. ファイルフォーマット仕様

#### ファイルフォーマット仕様

- 本仕様で利用するデータ型はJson schema ( <https://json-schema.org/> ) の仕様に準拠します。
- すべてのデータ型に対して、NULLは以下のルールで扱います。
  - 値が存在しない場合は、CSV上では「空 (長さ0の文字列) 」として記述してください。(例: ...,valueA,,valueC,...)
  - "null" や "NULL" などの文字列は使用しないでください。
  - 数値型 (Integer) 等の場合も、欠損時は0ではなく空欄とすることを基本とします (※0人に意味がある場合を除く)。

データ型	説明	フォーマット規定	CSV出力値の例
String(文字列)	一般的なテキストデータ。 文字コードはUTF-8とする。	特になし (ダブルクォートで囲むことを推奨)	東京駅
Integer(整数)	0以上の整数値。	半角数字のみ。 3桁区切りのカンマ (,) は含めない。	123450
Date(日付)	年月日を表す日付データ。	YYYY-MM-DD ※セパレータはハイフン(-)を使用 ※ゼロパディング (0埋め) を行う ※RFC 3339に準拠	2025-12-31 2026-01-05
Date-time(日時)	年月日と時刻 (時分秒) を表すデータ。 日本標準時 (JST) とする。	YYYY-MM-DDThh:mm:ss ※日付と時刻の間は半角スペース ※セパレータはハイフン(-) とコロン(:) ※RFC 3339に準拠	2025-10-10T10:00:00 2025-10-10T09:05:00
Enum(区分値)	あらかじめ定義されたコード値 (文字列) から選択して 設定する項目。	定義済みの半角英数コード値 ※コードリストは地域・事業者間で共有された定義に従う	ADULT,EXIT
Array(配列/リスト)	複数の値を持つ項目 (乗継駅コードなど)。	JSON配列形式["値1", "値2"] ※CSV内では文字列として扱うため、内部のカンマやダブルクォートのエスケープ処理に注意する	["0101", "0102"] ["100_10", "100_15"]

### 3. ファイルフォーマット仕様

#### 定義項目の読み方

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)		発生(※4)	
				IC	運賃箱						鉄道	バス
1	乗降実績ID	<u>ridership_record_id</u>	○	○	○	Integer	1	本ファイル内におけるレコードの一意性を担保するユニークキーとする。	○			
2	ICカード識別コード	<u>ic_card_agency_identification_code</u>		○	○	String	F8Z9A1K4C7V3E5R2T	事業者が管理するICカードの識別番号IDiまたはカードの製造番号IDmを設定する	○	○	○	

No	名称	内容
①	(チケット情報or乗降実績)フィールド名	データ項目を人が理解するため論理名。
②	物理名	コンピュータシステムがデータを識別するために用いる英数字の名称。 CSVファイルのヘッダ行に使用される。 日付は_date、タイムスタンプは_at、IDは_id、コードは_code、区分は_typeを末尾に付与。
③	ユニークキー	CSVファイル全体でユニーク(一意)となるデータ。
④	必須	以下の二つの条件の両方に当てはまるフィールドは必須フィールドとして定義し、○を付している。 - 一般的に乗降実績データの分析に利用されるデータ - 現行システムからそのまま出力できるデータ また、※○は条件付き必須を表す。条件は説明文に記載される。
⑤	データ型	コード(String)および区分(Enum)のリストは事業者又は地域内の定義を利用する。 データ型はJson schemaの型を採用し、以下のルールで設定する。 日付をDate タイムスタンプをDate-time コード値をEnum 数値をInteger リストをArray 上記以外をString
⑥	サンプルデータ	仕様に沿ったサンプルデータ。
⑦	入力規則	値の入力ルール及び条件付き必須の条件を記載。
⑧	推奨	現行システムから一般的に出力することは難しいものの、当該フィールドが出力されることで効果的なデータ分析が行えるデータを推奨フィールドとして定義。
⑨	発生	鉄道、バスどちらの乗降実績から発生するデータであることを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(1/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)	発生(※4)	
				IC	運賃箱					鉄道	バス
1	乗降実績ID	ridership_record_id	○	○	○	Integer	1	本ファイル内におけるレコードの一意性を担保するユニークキーとする。	○		
2	ICカード識別コード	ic_card_agency_identification_code		○	○	String	F8Z9A1K4C7V3E5R2T	事業者が管理するICカードの識別番号IDiまたはカードの製造番号IDmを設定する	○	○	○
3	ICカード発行事業者コード	ic_card_issuer_code				String	10カード事業者A //コードの例 0000:"10カード事業者A" 0001:"10カード事業者B"	ICカードの発行事業者を識別するコード	○	○	○
4	ICカード発行事業者名	ic_card_issuer_name				String	10カード事業者A	ICカードの発行事業者名			
5	ICカード機能区分	ic_card_feature_type				Enum	SF_CREDIT_AUTOCHARGE //Enumの例 ["SF_CREDIT_AUTOCHARGE", "SF_ONLY", "SF_NO_CREDIT"]	ICカードに付帯されている機能を識別するコード			
6	券種エリアコード	ticket_type_area_code				String	0000 //コードの例 0000:"町田市" 0001:"中央区"	定期券などの対象となるエリアを識別するコード ICカードに券種が存在する場合に設定			
7	券種区分	ticket_type				Enum	ONE_DAY_PASS //Enumの例 ["SINGLE_TRIP_TICKET", "STUDENT_PASS", "COMMUTER_PASS", "EXCURSION_TICKET", "ONE_DAY_PASS", "SHORT_TERM_PASS"]	チケットに付帯している券種を識別するコード	○	○	○
8	券種名	ticket_type_name				String	1日乗車券	チケットに付帯している券種名			
9	券有効開始日	ticket_valid_start_date				Date	2025-12-31	定期券等ICカードを特有の券種として利用している場合の有効開始日 YYYY-MM-DDの形式 ※日本標準時(JST)を前提とする。			
10	券有効終了日	ticket_valid_end_date				Date	2025-12-31	定期券等ICカードを特有の券種として利用している場合の有効終了日 YYYY-MM-DDの形式 ※日本標準時(JST)を前提とする。			

※1:事業者が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード(String)および区分(Enum)のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表(マスタ情報)を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(2/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)	発生(※4)	
				IC	運賃箱					鉄道	バス
11	交通モードコード	transportation_mode_code				String	・GTFSの例 0(0:"路面電車", 1:"地下鉄、メトロ"2:"電車", 3:"バス") ・コードの例 0000:"鉄道" 0001:"バス"	利用した交通モードを識別するコード。事業者がGTFSを利用する場合、routes.txtの「route_type」を設定する。	○	○	○
12	ICカード利用明細ID	ic_card_usage_detail_id				Integer	1	ICカードが保持している一意のID IDi、IDm単位の管理明細ID	○	○	○
13	運行事業者コード	operating_agency_code				String	・GTFSの例 00000000000000000000_1(法人番号) ・コードの例 0000:"〇〇東日本" 0001:"〇〇東海" 0002:"〇〇電鉄"	運行事業者を識別するためのコード 事業者がGTFSを利用する場合、agency.txtの「agency_id」を設定		○	○
14	運行事業者名	operating_agency_name				String	〇〇東日本	運行事業者名 事業者がGTFSを利用する場合、agency.txtの「agency_name」を設定		○	○
15	営業所コード	serviced_office_code			○	String	・GTFSの例 S ・コードの例 0000:"新宿営業所" 0001:"品川営業所"	営業所を識別するためのコード 事業者がGTFSを利用する場合、office_jp.txtの「office_id」を設定	○		○
16	営業所名	serviced_office_name				String	深川営業所	営業所名 事業者がGTFSを利用する場合、office_jp.txtの「office_name」を設定			○
17	系統ID	route_pattern_id				String	1001	系統を識別するためのコード 事業者がGTFSを利用する場合、trip.txtの「jp_pattern_id」を設定する	○		○
18	系統番号	route_pattern_number			○	String	都02	バス事業者が系統の識別のために独自に定めている番号や記号 事業者がGTFSを利用する場合、routes.txtの「route_short_name」を系統番号としている場合は、設定する	○		○

※1:事業会社が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード (String) および区分 (Enum) のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表 (マスタ情報) を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(3/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)		発生(※4)	
				IC	運賃箱						鉄道	バス
19	路線名	service_line_name				String	岡山西大寺線	バス事業者が路線の識別のために独自に定めている番号や記号 事業者がGTFSを利用する場合、routes.txtの「route_long_name」を系統番号としている場合は、設定する				○
20	経路名	route_name				String	東京駅～豊洲駅	経路名 事業者がGTFSを利用する場合、routes.txtの「route_long_name」を設定する ※GTFSでは、route_long_nameまたはroute short nameのどちらかが必須で設定する項目となっており、系統番号をroute_long_nameで表現している事業者が存在する可能性があるがその場合でも経路名として設定する。 路線・系統における便を識別するコード	○			○
21	便コード	trip_code				String	1001_WD_001	事業者がGTFSを利用する場合、trips.txtの「trip_id」を設定する	○			○
22	ダイヤ番号	timetable_number				String	A01	バス事業者内部で使われる運行計画の識別番号				○
23	車両番号	vehicle_number				String	A123	それぞれのバス会社が独自に付与している識別番号				○
24	処理区分	operation_type				Enum	EXIT //Enumの例 [ENTRY,EXIT]	乗降実績に関連する処理を識別するコード			○	○
25	処理詳細区分	operation_detail_type				Enum	SPECIFIC_FARE //Enumの例 [DISCOUNT_TRANSFER,SPECIFIC_FARE,ADDITIONAL_FARE]	処理コードを参照しつつ、より細分化された情報を管理する				○
26	乗車エリアコード	boarding_area_code				String	0000 //コードの例 0000:“北海道” 0001:“東北” 0002:“関東”	乗車駅(停留所)の地域を識別するためのコード バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される			○	○
27	乗車停留所連番	boarding_station_sequence				Integer	5	市内循環ルートなど、同一系統内で同じ停留所に複数回停車する場合があります、その際に何回目の停車かを識別するための連番 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される				○

※1:事業会社が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード (String) および区分 (Enum) のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表 (マスタ情報) を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(4/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)	発生(※4)	
				IC	運賃箱					鉄道	バス
28	乗車駅(停留所)コード	boarding_station_code		○※	○※	String	・GTFSの例 100_10 ・コードの例 0000:"東京駅" 0001:"品川駅"	乗車した駅(停留所)を識別するコード 事業者がGTFSを利用する場合、stops.txtの「stop_id」を設定する 乗車or降車駅(停留所)コードのいずれかを必須とする 同一の駅又は停留所に複数のstop_idが設定されている場合には、原則としてstop_type = 1のstop_idと関連付ける。 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報を必須とする。	○	○	○
29	乗車駅(停留所)名	boarding_station_name				String	東京駅	乗車した駅(停留所)名 事業者がGTFSを利用する場合、stops.txtの「stop_name」を設定する。 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される。	○	○	○
30	乗車日時	boarding_at		○※	○※	Date-time	2025-10-10T10:00:00	乗車した日時 YYYY-MM-DDThh:mm:ssの形式 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報を必須とする。	○		○
31	乗車経路ID	boarding_route_id				String	jp_bus_0000	経路を識別するためのコード 事業者がGTFSを利用する場合、routes.txtの「route_id」を設定する バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される。	○		○
32	乗継エリアコードリスト	transfer_area_code_list				Array <String>	["0000","0102"]	乗継駅(停留所)の地域を識別するためのコードのリスト リストは乗り継いだ順に配列の0から設定する。		○	

※1:事業者が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード (String) および区分 (Enum) のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表 (マスタ情報) を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(5/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須(※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨(※3)	発生(※4)		
				IC	運賃箱					鉄道	バス	
33	乗継駅(停留所)コードリスト	transfer_station_code_list				Array <String>	["0101","0102","0103"]	乗継駅がある場合に、利用した駅(停留所)を識別するコードのリスト 乗継が複数ある場合を想定し、リストで管理する。 リストは乗り継いだ順に配列の0から設定する。 事業者がGTFSを利用する場合、stops.txtの「stop_id」を設定する。 同一の駅又は停留所に複数のstop_idが設定されている場合には、原則としてstop_type = 1のstop_idと関連付ける。	○	○		
34	降車エリアコード	alighting_area_code				String	0000 //コードの例 0000:"北海道" 0001:"東北" 0002:"関東"	降車駅(停留所)の地域を識別するためのコード バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される		○	○	
35	降車停留所連番	alighting_station_sequence				Integer	5	市内循環ルートなど、同一系統内で同じ停留所に複数回停車する場合があります、その際に何回目の停車かを識別するための連番 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される			○	
36	降車駅(停留所)コード	alighting_station_code			○※	○※	String	・GTFSの例 100_10 ・コードの例 0000:"東京駅" 0001:"品川駅"	降車した駅(停留所)を識別するコード 事業者がGTFSを利用する場合、stops.txtの「stop_id」を設定する 同一の駅又は停留所に複数のstop_idが設定されている場合には、原則としてstop_type = 1のstop_idと関連付ける。 乗車or降車駅(停留所)コードのいずれかを必須とする バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報を必須とする。	○	○	○
37	降車駅(停留所)名	alighting_station_name				String	大崎駅	降車した駅(停留所)名 事業者がGTFSを利用する場合、stops.txtの「stop_name」を設定する バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報が記録される。	○	○	○	

※1:事業会社が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード (String) および区分 (Enum) のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表 (マスタ情報) を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 4. データ項目詳細定義

### フィールド定義(6/6)

No	フィールド名	物理名	ユニークキー	必須 (※1)		データ型(※2)	サンプルデータ	入力規則	推奨 (※3)	発生(※4)	
				IC	運賃箱					鉄道	バス
38	降車日時	alighting_at		○※	○※	Date-time	2025-10-10T10:20:00	降車した日時 一件明細が作成された日時、ICカードを機器にタッチした日時と同一となる YYYY-MM-DDThh:mm:ssの形式 バスにおけるワンタッチの場合、乗車もしくは降車のいずれかの情報を必須とする。	○		○
39	精算日時	payment_at		○	○	Date-time	2025-10-10T10:20:00	精算日時 一件明細が作成された日時(鉄道であれば出場、バスであれば乗車もしくは降車の精算時) YYYY-MM-DDThh:mm:ssの形式	○	○	○
40	大人障がい者利用者数	adult_challenged_passenger_count				Integer	1	大人身障者利用人数	○		○
41	大人利用者数	adult_passenger_count				Integer	1	大人利用人数	○		○
42	小児障がい者利用者数	child_challenged_passenger_count				Integer	1	小児身障者利用人数	○		○
43	小児利用者数	child_passenger_count				Integer	1	小児利用人数	○		○
44	利用者分類区分	passenger_classification_type				Enum	ADULT //Enum の例 ["ADULT", "CHILD", "INFANT", "SENIOR", "DISABLED"]	バスにおいて、1枚のICカードで複数人の精算を実施する場合で利用する区分。 精算時に利用したICカードで利用者(大人や子供)を管理している場合、その情報を設定する。	○		○
45	支払い区分	payment_type				Enum	IC_CARD //Enum の例 ["CASH", "IC_CARD", "ELECTRONIC_MONEY", "EMV", "QR_CODE"]	決済手段を表す区分。	○		○

※1:事業会社が出力できない、提出できないデータの出力は不要とする。

※2:コード (String) および区分 (Enum) のリストは各事業者又は地域内で定義を作成し共有する想定。また、データ提出時にはコードと名称のマッピング表 (マスタ情報) を乗降実績データと合わせて提供する。

※3:過去の乗降実績の分析で利用されることが多いフィールドに推奨フラグを設定。

※4:鉄道、バスどちらの乗降実績から発生する乗降実績かを表す。

## 5. 付録

### 区分値のマッピング例

- フォーマット上の各種区分値（ICカード機能区分、券種区分など）は事業者よりコードと名称のマッピングを提出いただくことを想定する。
- フォーマットは事業者が最も提出しやすい形式とする。
- 以下、CSVとjsonで出力した例となる。

#### CSVの例

```
target_physical_name,code,name
ticket_type,ONE_DAY_PASS,1日乗車券
ticket_type,COMMUTER_PASS,通勤定期券
ic_card_feature_type,SF_CREDIT_AUTOCHARGE,オートチャージ機能付
ic_card_feature_type,SF_ONLY,SF機能のみ
passenger_classification_type,ADULT,大人
passenger_classification_type,CHILD,小児
serviced_office_code,S,深川営業所
serviced_office_code,0001,新宿営業所
boarding_station_code,100_10,東京駅
boarding_station_code,100_20,横浜駅
route_pattern_number,都02,都02系統
```

#### サンプルCSVのヘッダの情報

- target\_physical\_name = 区分値の対象となる乗降実績のフィールド名
- Code = 乗降実績のフィールドに設定されているコード
- Name = 分析時に利用する日本語名

#### jsonの例

```
{
  "ticket_type": [
    { "code": "ONE_DAY_PASS", "name": "1日乗車券" },
    { "code": "COMMUTER_PASS", "name": "通勤定期券" }
  ],
  "c_card_feature_type": [
    { "code": "SF_CREDIT_AUTOCHARGE", "name": "オートチャージ機能付" },
    { "code": "SF_ONLY", "name": "SF機能のみ" }
  ],
  "passenger_classification_type": [
    { "code": "ADULT", "name": "大人" },
    { "code": "CHILD", "name": "小児" }
  ],
  "serviced_office_code": [
    { "code": "S", "name": "深川営業所" },
    { "code": "0001", "name": "新宿営業所" }
  ],
}
```

区分値の対象となる乗降実績にフィールド名

- Code = 乗降実績のフィールドに設定されているコード
- Name = 分析時に利用する日本語名



## 5. 付録

### サンプルデータ(1/2)-CSVをテーブル化

- 前ページのCSV原本を参考としてテーブル化し、視覚的に表現する。

XX電鉄\_2\_20251203.csv

判例：鉄道 (IC)、バス (IC)、バス (運賃箱)

ic_card_agency_id	ic_card_issuer_code	ic_card_issuer_name	ic_card_feature_type	ticket_type_area_code	ticket_type_name	ticket_val_start_date	ticket_val_end_date	ridership_record_id	transportation_mode_code	ic_card_usage_detail_id	operating_agency_code	operating_agency_name	serviced_office_code	serviced_office_name	route_tern_id	route_tern_number	service_name	route_id	route_name	trip_code	timetable_number	vehicle_number	operation_type	operation_detail_type	boarding_area_code	boarding_station_sequence	boarding_station_code	boarding_station_name	boarding_at	transfer_area_code_list	transfer_station_code_list	alighting_area_code	alighting_station_sequence	alighting_station_code	alighting_station_name	alighting_at	payment_at	adult_challenged_passenger_count	adult_passenger_count	child_challenged_passenger_count	child_passenger_count	passenger_classification_type
F829A1K4C7V3E5R2T	0	Suica	SF_CREDIT_AUTO_CHARGE	0	ONE_DAY_PASS	2025-12-31	2025-12-31	1	2	1	00000000000001	JR東日本												2		100_10	東京駅	2025-10-10T10:00:00	["0002,0003"]	["100_10","100_15"]	1		100_20	横浜駅	2025-10-10T11:00:00	2025-10-10T11:00:00						ADULT
F829A1K4C7V3E5R3U	0			0	ONE_DAY_PASS	2025-12-31	2025-12-31	2	0	1	0														0							104			2025-10-10T11:00:00							
F829A1K4C7V3E5R4V								3		1														1								0			2025-10-10T11:00:00							

XXバス\_3\_20251203.csv

ic_card_agency_id	ic_card_issuer_code	ic_card_issuer_name	ic_card_feature_type	ticket_type_area_code	ticket_type_name	ticket_val_start_date	ticket_val_end_date	ridership_record_id	transportation_mode_code	ic_card_usage_detail_id	operating_agency_code	operating_agency_name	serviced_office_code	serviced_office_name	route_tern_id	route_tern_number	service_name	route_id	route_name	trip_code	timetable_number	vehicle_number	operation_type	operation_detail_type	boarding_area_code	boarding_station_sequence	boarding_station_code	boarding_station_name	boarding_at	transfer_area_code_list	transfer_station_code_list	alighting_area_code	alighting_station_sequence	alighting_station_code	alighting_station_name	alighting_at	payment_at	adult_challenged_passenger_count	adult_passenger_count	child_challenged_passenger_count	child_passenger_count	passenger_classification_type	
F829A1K4C7V3E5R2T	0	Suica	SF_CREDIT_AUTO_CHARGE	0	ONE_DAY_PASS	2025-12-31	2025-12-31	1	3	1	00000000000001	JRバス関東	S	深川営業所	1001	都AA	都営バス	jp_bus_0000	深川営業所-豊洲駅	1001_WD_001	A01	A123	EXIT	SPECIFIC_FARE	2	1	100_10	深川営業所	2025-10-10T10:00:00	["0002,0003"]	["100_10","100_15"]	1	1	100_20	新橋	2025-10-10T11:00:00	2025-10-10T11:00:00	1	1	1	1	1	ADULT
F829A1K4C7V3E5R3U	0			0	ONE_DAY_PASS	2025-12-31	2025-12-31	2	1	1	0		0	新宿営業所		都AB									2	0						2	104			2025-10-10T10:00:00		1		1			
F829A1K4C7V3E5R4V								3		1		1		品川営業所		都AC									1							0			2025-10-10T11:00:00		1		1				
								4	3		00000000000001	JRバス関東	S	深川営業所	1001	都AA	都営バス	jp_bus_0000	深川営業所-豊洲駅	1001_WD_001	A01	A123	EXIT	SPECIFIC_FARE	2	1	100_10	深川営業所	2025-10-10T10:00:00	["0002,0003"]	["100_10","100_15"]	1	1	100_20	新橋	2025-10-10T11:00:00	2025-10-10T11:00:00	1	1	1	1	1	ADULT
								5	1		0		0	新宿営業所		都AB									2	0						2	104			2025-10-10T10:00:00		1		1			
								6				1		品川営業所		都AC									1							0			2025-10-10T11:00:00		1		1				

## 5. 付録

### GTFSと標準フォーマットのマッピング

- 本仕様におけるGTFSとのマッピングは以下の通りとなる。

GTFS-JP (第3版)		乗降実績標準フォーマット		
GTFSファイル	GTFS項目	フィールド名	物理名	GTFSの活用方法
agency.txt	agency_id	運行事業者コード	operating_agency_code	運行事業者を識別するコード（法人番号等）を設定します。
agency.txt	agency_name	運行事業者名	operating_agency_name	運行事業者名を設定します。
office_jp.txt	office_id	営業所コード	serviced_office_code	GTFS-JP拡張営業所を識別するコードを設定します。
office_jp.txt	office_name	営業所名	serviced_office_name	GTFS-JP拡張営業所名を設定します。
trip.txt	jp_pattern_id	系統ID	route_pattern_id	GTFS-JP拡張系統を識別するコードを設定します。
routes.txt	route_type	交通モードコード	transportation_mode_code	GTFSのroute_type（0:路面電車, 1:地下鉄, 2:鉄道, 3:バス等）を参考に設定します。
routes.txt	route_short_name	系統番号	route_pattern_number	route_short_name を系統番号として利用している場合に設定します。
routes.txt	route_long_name	路線名	service_line_name	route_long_name を路線名として利用している場合に設定します。
routes.txt	route_id	経路ID	route_id	経路を識別するコードを設定します。
routes.txt	route_long_name	経路名	route_name	経路名を設定します。 GTFSでは route_long_name項目には経路名として設定します。
stops.txt	stop_id	乗車駅(停留所)コード	boarding_station_code	乗車した駅（停留所）を識別するコードを設定します。location_type が 1（駅）または 0（停留所・標柱）に該当するIDを使用します。
stops.txt	stop_name	乗車駅(停留所)名	boarding_station_name	乗車した駅（停留所）名を設定します。
stops.txt	stop_id	乗継駅(停留所)コードリスト	transfer_station_code_list	乗継が発生した場合、利用した駅（停留所）のコードをリスト形式で設定します。
stops.txt	stop_id	降車駅(停留所)コード	alighting_station_code	降車した駅（停留所）を識別するコードを設定します。※乗車駅コードと同様のルールで設定します。
stops.txt	stop_name	降車駅(停留所)名	alighting_station_name	降車した駅（停留所）名を設定します。
trips.txt	trip_id	便コード	trip_code	路線・系統における便を識別するコードを設定します。

## 5. 付録

### 外部仕様参照先

- 本仕様における各種参照先を掲示します。

資料・リソース名称	役割・主な内容	参照先・入手方法
GTFS	世界標準の公共交通データフォーマット。本仕様における「交通モードコード (route_type)」等のコード体系の基礎定義として参照します。	<a href="https://gtfs.org/">https://gtfs.org/</a>
GTFS-JP	日本国内のバス標準フォーマット。本仕様における「乗車駅コード (stop_id)」や「系統情報」等の参照元マスターデータとして利用します。	<a href="https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000112.html">https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000112.html</a>
JSON Schema Specification	本仕様のバリデーション（必須チェック、型定義）記述言語の公式仕様。データモデル定義書（JSON Schema）の技術的な解釈のために参照します。	<a href="https://json-schema.org/">https://json-schema.org/</a>
RFC 3339	日付と時刻の表記に関する国際標準規格。 本仕様における「日時型 (Date-time)」のフォーマット (YYYY-MM-DDThh:mm:ss) 定義として準拠します。	<a href="https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc3339">https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc3339</a>
文字コード (UTF-8)	世界的な文字エンコーディング標準。本仕様におけるCSVファイルの文字化けを防ぎ、システム間相互運用性を担保するために採用しています。	<a href="https://home.unicode.org/">https://home.unicode.org/</a>



**COMmmons**